

SANKYU

株主の皆様へ

第107期 (2015年4月1日～2016年3月31日)

Thank you 便り



※写真の詳細はP10に掲載しております。

(認証)



- ISO9001 認証取得
- ISO14001 認証取得



認定通関業者・特定保税承認取得者

子育てサポート企業認定

 **山丸株式会社**

証券コード：9065

<http://www.sankyu.co.jp>

代表取締役会長 (CEO) 中村公一
代表取締役社長 (COO) 中村公大



新たな経営・執行体制で 更なる発展を目指してまいります

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当社事業に格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

また、この度の熊本、大分での地震で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、私どもは、本年2月の取締役会の決議により、4月1日付けで代表取締役会長および代表取締役社長に就任いたしました。第107期「Thank you 便り」をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

今回、経営・執行体制は新しくなりましたが、経営の方向性を変えるものではありません。引き続き、当社の事業基盤である「プラント・エンジニアリング」「ロジスティクス」「オペレーション・サポート」を有機的に結び付ける「山九のユニーク」をグローバルに展開し、更なる業容の拡大を目指してまいります。

当社の目指すべき方向性は、「山九のユニーク」を軸として自らがグローバル化し、国内外でお客様に貢献するソリューション企業となることです。この実現に向け、山九グループ一丸となって取り組んでまいります。

併せて、株主の皆様からの信頼を一層高めるため、企業統治の更なる強化を目指し、会長職を新たに設けるとともに、代表取締役を2名増員し、更に経営体制を強化いたしました。

当社は、2018年に創立100周年を迎えますが、これを一つの通過点として捉え、その先も更に成長を遂げたいとの強い思いのもと、新たな体制で取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 (COO) 中村公大

最重要課題と位置付けている「創立100周年の先を見据えた収益力強化」の実現に向け、国内・海外共に、物流事業、機工事業および人財育成への戦略的な投資を進めてまいります。

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

山九グループの第107期の経営成績をご報告するとともに、今後の方向性についてご説明申し上げます。

当期の世界経済は、米国の追加利上げや中国経済の一層の悪化を懸念し、踊り場的な展開となりました。一方、国内経済は、設備投資は総じて堅調に推移したものの、中国や新興国経済の減速は、輸出企業の業績押し下げや製造業の生産調整に影響し、景気の基調は横ばいでの推移となりました。

このような環境下、山九グループの物流事業分野では、国内外貨物の集荷営業強化、新規物流センターの早期収益化や低採算作業からの撤退等、収益基盤の改善に取り組んでまいりました。一方、機工事業分野では、海外における新規保全作業の本格化や国内製鉄所におけるコークス炉改修工事等の着実な受注および

施工に加え、石化設備のSDM（大型定期修理工事）領域拡大に向け、注力いたしました。この結果、当期は昨年度比で、増収増益となりました。

山九グループは、当連結会計年度を初年度とする中期経営計画において「コスト構造改革戦略」、「事業戦略」、「経営構造改革戦略」の3点を重要戦略として掲げております。これらの重要戦略を軸とし、国内外の事業環境およびお客様の变化やニーズをいち早く捉え、「マーケットで勝てるコスト」の構築および「お客様のご期待を上回る提案」を積極的に行うことで、質の高いグローバルなサービスを提供するなど、更なる企業価値の向上への取組みを進めております。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年6月

CONTENTS

ご挨拶	P 1
株主の皆様へ	P 2
よくあるご質問	P 3
役員紹介	P 5
クローズアップ	P 7
山九グループトピックス	P 9
連結財務情報	P11
単体財務情報	P13
会社情報	P14

将来情報に関するご注意

本誌の掲載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測にはリスクや不確定要素が含まれており、実際の成果や業績と大きく異なる場合がありますのでご注意ください。

山九グループをより深く理解いただくために 株主の皆様からのよくあるご質問にお答えいたします。

? 当期の業績について

国内外の経済環境が停滞気味となる中、山九グループは集荷営業強化とコスト収益基盤の改善に努めてまいりました。その結果、連結業績は、売上高4,894億41百万円と前期比1.7%の増収となりました。利益面においては営業利益が243億17百万円と14.4%の増益となる一方、為替評価損等の計上により経常利益が207億6百万円と3.5%の減益となりましたが、連結純利益は129億11百万円と9.9%の増益となりました。これを受け、当期配当金額を1円増額し、11円といたします。

? セグメントごとの状況について

物流事業は、新規船社の航路獲得や既存船社の航路拡大等によるコンテナ取扱量の増加、海外の機械・設備輸送作業が年間を通じ堅調に推移したことに加え、3PL事業での収益向上や燃料単価の低下等が収益に貢献しました。構内作業では国内での単価改善や通信インフラ関連の物流作業が増加、海外でも東南アジア・中国・中東での石化構内における作業量が増加しました。この結果、売上高は2,570億22百万円と前期比2.0%の増収、営業利益は66億59百万円と15.6%の増益となりました。

機工事業は、基盤整備工事や解体工事獲得等に注力したことに加え、生産設備の緊急復旧工事を受注し、国内外大型工事の施工管理体制を強化しました。SDMは国内石油・石化構内設備はマイナー年に伴い

保全作業は減少しましたが、国内製鉄所構内での設備保全・修繕作業が増加しました。この結果、売上高は2,093億64百万円と前期比0.9%の増収、営業利益は158億88百万円と13.6%の増益となりました。

その他事業としては、システム開発案件や高速道路の点検・補修作業等の受注増加等により、売上高は230億54百万円と前期比5.7%の増収、営業利益は14億76百万円と22.2%の増益となりました。

? 2017年3月期の見通しについて

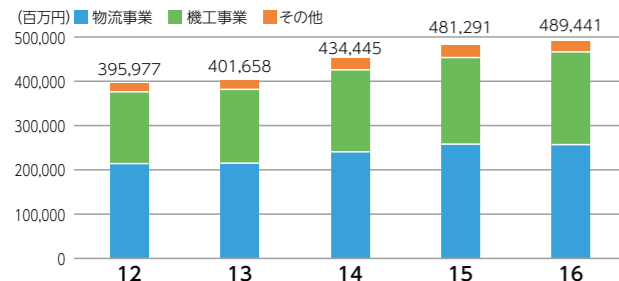
米国は個人消費や住宅投資の下支え、欧州は雇用改善や原油安を背景に内需の持ち直しが継続するものの、中国や新興国経済の減速影響から景気の勢いは鈍化し、国内では消費マインドの弱さが継続し回復の力強さに欠ける展開が見込まれます。企業の設備投資は慎重姿勢が強まる動きはあるものの、競争力強化のための生産性向上や製造基盤整備、老朽化対策投

資については、引続き堅調に推移すると予測しております。

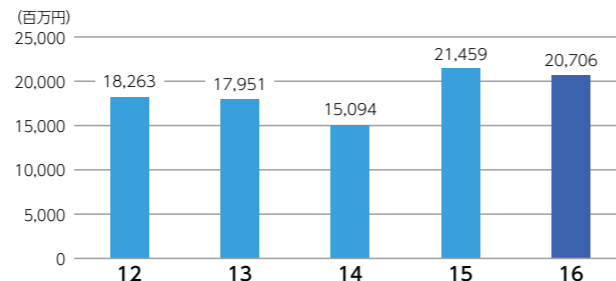
山九グループは中期経営計画の二年目を迎え、最重要課題と位置付けている「創立100周年の先を見据えた収益力強化」について戦略的に取り組んでまいります。ここ数年、物流事業の構造改革と収益改善を目的とした投資により、その効果が具現化してきましたが、2017年3月期は機工事業の成長戦略を成し得るために、人材育成と重機・機材への戦略投資を集中的に実施してまいります。将来に向けた機工事業の成長という実を得るため、種を蒔き、更なる動員力拡大と国内外での新規・既存両面での事業領域拡大を図ってまいります。

以上のことを踏まえまして、2017年3月期の業績見通しにつきましては、連結ベースで売上高4,940億円、営業利益245億円、経常利益243億円、当期純利益162億円を予想しております。

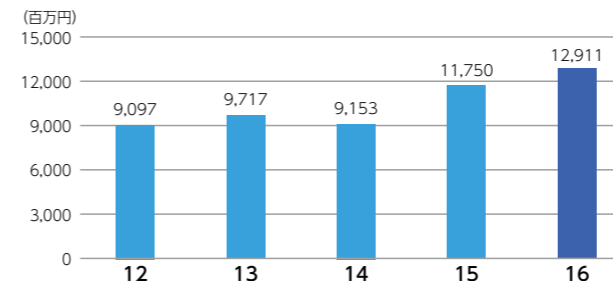
■ 部門別売上高



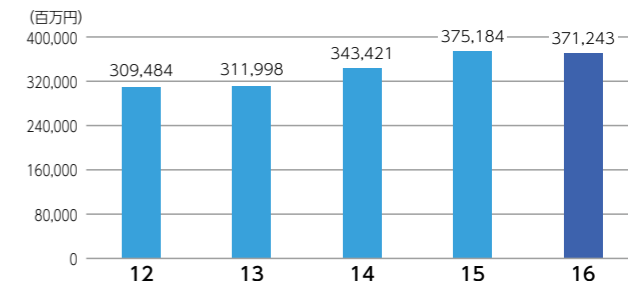
■ 経常利益



■ 当期純利益



■ 総資産



代表取締役会長

中村 公一

● CEO



代表取締役社長

中村 公大

● COO



代表取締役副社長

平栗 直樹



取締役兼常務執行役員

米子 哲朗

● ロジスティクス・ソリューション事業本部長



取締役兼常務執行役員

井上 正夫

● プラント・エンジニアリング事業本部長



取締役兼執行役員

結城 俊雄

● 経営企画担当



代表取締役副社長

吾郷 康人

● CTO兼技術開発本部長



代表取締役専務取締役

美好 秀樹

● 事業・エリア管掌兼エリア統括兼安全・環境統括



代表取締役専務取締役

小川 隆

● 管理管掌



社外取締役

岡橋 輝和



社外取締役

堀 啓二郎



常勤監査役

島田 正彦



取締役兼常務執行役員

中里 康男

● 財務担当
CFO



取締役兼常務執行役員

池上 僚一

● ビジネス・ソリューション事業本部長



取締役兼常務執行役員

細井 研二

● 人事・労政担当



常勤監査役

和知 啓彦



常勤監査役(社外監査役)

武田 敬一郎



社外監査役

小川 憲久

● 弁護士



「お客様への更なる貢献」のために

山九グループの総合力から生まれる独自のサービスを世界中のお客様にご提案してまいります



【山九のユニーク】の独自サービスとは

「プラント・エンジニアリング」「ロジスティクス」「オペレーション・サポート」の3事業が連携することでお客様の重要なビジネスを トータルにサポートできる世界にも類を見ないサービスです。

トータルサポートサービス

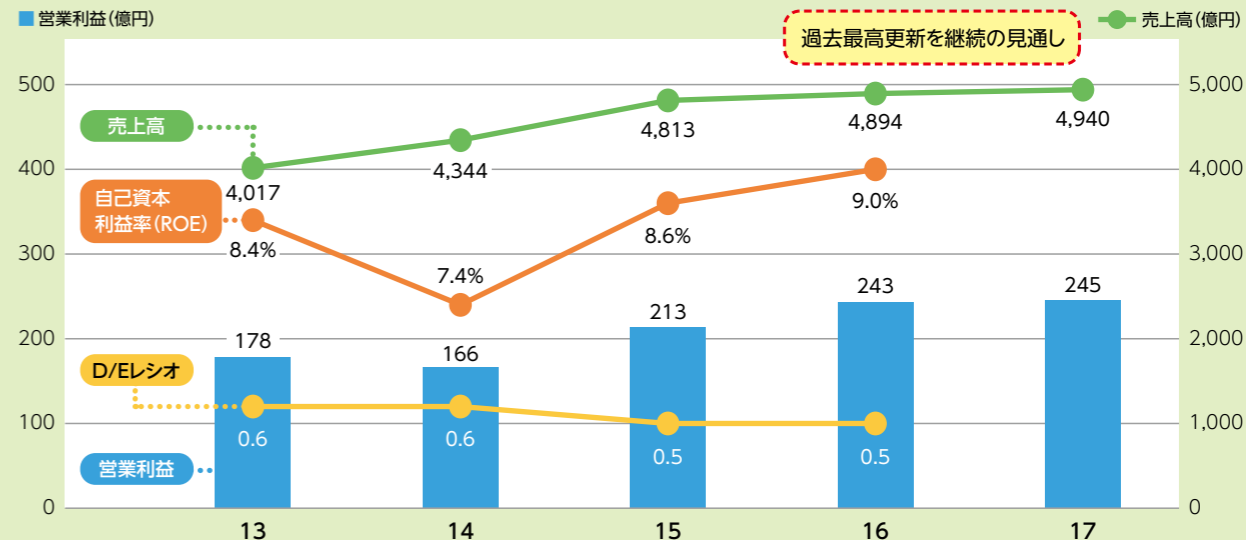
プラントの企画段階から、設計・建設・重量物輸送・据付・試運転、さらに、お客様の操業支援と設備のメンテナンス、調達・生産・販売までの各種物流にいたるまで、お客様の重要な事業をトータルでサポートできるビジネスモデルです。



「将来にわたってお客様から選ばれる企業であり続ける」ために

業績推移

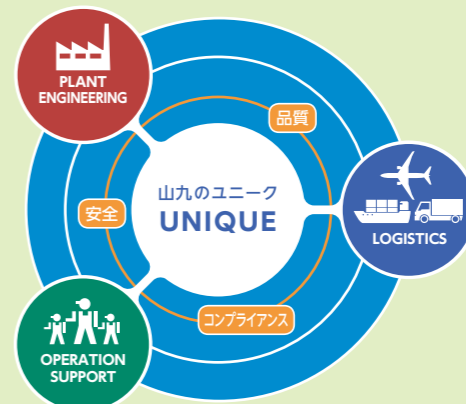
●収益力は着実に向上



●取組事項

最強フィールドエンジニアリング
集団としてグローバルに進化

グローバルにお客様構内の最適
ソリューションを提供し安定収益
を確保



支配貨物と事業構造
改革・生産性向上による
収益力の向上

海外事業

1月 タイ～ミャンマー間・南部経済回廊
を活用した物流実証事業

●トラックのテスト輸送を受託

国土交通省は1月、インドシナ半島の主要都市を結ぶ「南部経済回廊」を活用したタイ～ミャンマー間における物流システムの実証実験の実施を発表しました。ミャンマー南部ダウエーにおいて、東南アジア最大規模の「ダウエー経済特区」の開発に日本が参加を表明する中、今後のダウエー開発を視野に、南部経済回廊を活用したタイ～ミャンマー間における新たな物流システムについての実証事業を実施するものです。当社は、国土交通省の委託を受け、2月以降、東南アジアでのネットワークを活用し、トラック輸送の実証実験を行いました。



海外設備

1月 インドネシア・チカラ物流センター
2期倉庫開設

●40,000㎡の大型物流センター

山九インドネシア国際は1月、同国西ジャワ州ブカシ県に「山九チカラ物流センター 2期倉庫」を開設いたしました。倉庫面積は28,629㎡と1期倉庫と合わせ40,000㎡近い面積を有する大型物流センターとなります。電子部品から化学品、一般消費財など幅広い貨物に対応し、お客様からの様々なニーズに対応可能な空調完備の流通加工作業場を配備しています。今後も山九グループはお客様の多様なニーズに高品質サービスで貢献できるよう、グローバルネットワークの強化と拡充を図ってまいります。



左：2期倉庫 右：1期倉庫

国内設備

2月 福岡・アイランドシティ物流センター
を開設

●世界と日本国内をつなぐロジスティックハブ

当社は2月、福岡市東区にある人工島アイランドシティに「アイランドシティ物流センター」を開設いたしました。同センターは、博多港での国際海上コンテナ貨物の約60%を取り扱うアイランドシティコンテナヤードに隣接し、福岡空港、九州自動車道福岡IC、JR福岡ターミナル、博多駅にも10km圏内と最適な立地となっています。輸出入コンテナ貨物の取扱いは主に行いつつ、アジアはもとより世界と日本国内をつなぐロジスティックハブとしての成長を見込んでおります。



技術・技能

3月 「技術・開発展示会2016」を
開催

●67の開発技術を紹介

当社は3月24日から25日、本社ビルで「山九 技術・開発展示会2016」を開催しました。大学や他企業との共同開発を含む機工や物流に関する技術を一堂に集め、社内外に広く告知することを目的としています。67点の実機やパネルによるデモンストレーションを行い、デモンストレーションでは「フォークリフトの作業接近検知システム」やアシストスーツなどが紹介されました。今後も山九グループはお客様の成長につながる提案力を高めるために、技術力の向上や社内での情報共有を積極的に進めていきます。



国内事業

4月 高速横浜環状北西線の港北ジャンク
ションの立体交差部橋体輸送を実施

●お客様からの高評価を得る重量物の実力

「高速横浜環状北西線」は、その整備により横浜港と東名高速道路が直結されるなど、市民生活の利便性向上や横浜経済の活性化、横浜港の発展にとって重要な路線であり、早期完成に対する大きな期待が寄せられています。当社は2月、港北ジャンクションの橋体を架設位置まで輸送する作業を行いました。入念な事前計画のもと、一般交通に対する影響が比較的少ない深夜帯の限られた規制時間の中、一部車線を規制し、周囲交通・地域に配慮して、ユニットドリーを駆使した確実な運行・架設を遂行することができ、お客様から高い評価を頂くことができました。今後インフラ工事の増加が予想されるなか、「重量物の山九」としての実力を発揮して、お客様に選ばれる作業を提供していきます。



技術・技能

5月 アジア・シームレス物流フォーラム2016
に出展

●山九グループの物流事情を紹介

山九グループは、5月に東京流通センターで開催された「アジア・シームレス物流フォーラム2016」に出展しました。グループ会社であるインフォセンス社との共同出展で、「山九のユニーク in Asia」をコンセプトに、当社の物流システムやアジアネットワーク、各種開発製品の他、タイ～ミャンマー間の物流最新情報などを紹介しました。



株主の皆様とのより良いコミュニケーションを図るため、2015年12月に9月30日現在の全株主様にアンケートを実施、多くの株主様からご回答をいただきました。ご協力誠にありがとうございました。頂戴いたしました貴重なご意見は、今後のIR活動などに反映させていただきたいと考えております。

■ 連結貸借対照表(要約)

当期：2016年3月31日
前期：2015年3月31日
(単位：百万円)

科目	当期	前期
●資産の部		
流動資産	165,780	171,511
現金及び預金	21,806	38,777
受取手形及び売掛金	127,364	114,476
その他	16,609	18,257
固定資産	205,463	203,672
有形固定資産	148,227	143,949
無形固定資産	13,833	14,533
投資その他の資産	43,401	45,189
① 資産合計	371,243	375,184
●負債の部		
流動負債	123,580	142,853
支払手形及び買掛金	70,980	68,039
短期借入金	21,531	26,863
その他	31,068	47,950
固定負債	99,906	86,947
社債	32,000	12,000
長期借入金	22,519	30,554
退職給付に係る負債	29,610	29,028
その他	15,777	15,363
② 負債合計	223,487	229,801
●純資産の部		
株主資本	143,432	132,467
資本金	28,619	28,619
資本剰余金	12,726	12,272
利益剰余金	110,754	100,356
自己株式	△ 8,668	△ 8,781
その他の包括利益累計額	1,111	9,814
非支配株主持分	3,212	3,100
③ 純資産合計	147,756	145,383
負債純資産合計	371,243	375,184

(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書(要約)

当期：2015年4月1日～2016年3月31日
前期：2014年4月1日～2015年3月31日
(単位：百万円)

科目	当期	前期
売上高	489,441	481,291
売上原価	446,451	443,024
売上総利益	42,989	38,266
販売費及び一般管理費	18,671	17,013
営業利益	24,317	21,253
営業外収益	1,716	2,532
営業外費用	5,327	2,325
経常利益	20,706	21,459
特別利益	511	757
特別損失	—	—
税金等調整前当期純利益	21,218	22,217
法人税等	8,108	9,811
当期純利益	13,110	12,405
非支配株主に帰属する当期純利益	199	654
親会社株主に帰属する当期純利益	12,911	11,750

(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

① 資産合計の減少

新倉庫稼働等による有形固定資産の増加はあったものの、手許資金の圧縮による現預金残高の減少等により、前期末比39億40百万円減少し、3,712億43百万円となりました。

② 負債合計の減少

社債発行による増加はあったものの、短期借入金の減少や納税等の資金支出に係る負債の減少等により、前期末比63億13百万円減少し、2,234億87百万円となりました。

③ 純資産の増加

利益剰余金の増加と有価証券評価差額金および為替換算調整勘定の減少との差等により、前期末比23億73百万円増加し、1,477億56百万円となりました。

■ 連結株主資本等変動計算書(要約)

自 2015年4月1日
至 2016年3月31日
(単位：百万円)

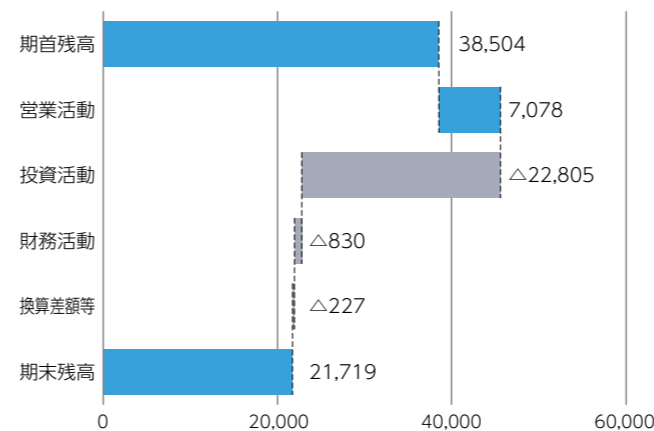
	株主資本					その他の包括利益累計額						非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累積額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	28,619	12,272	100,356	△ 8,781	132,467	7,227	△ 210	△ 1,422	2,567	1,652	9,814	3,100	145,383
当期変動額													
剰余金の配当			△ 3,016		△ 3,016								△ 3,016
親会社株主に帰属する当期純利益			12,911		12,911								12,911
自己株式の取得				△ 36	△ 36								△ 36
自己株式の処分				0	0								0
株式交換による変動		454		1,032	1,486								1,486
連結範囲の変動			367	△ 882	△ 514								△ 514
土地再評価差額金の取崩			135		135								135
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 4,566	31	103	△ 3,357	△ 913	△ 8,703	111	△ 8,591
当期変動額合計	—	454	10,397	113	10,964	△ 4,566	31	103	△ 3,357	△ 913	△ 8,703	111	2,373
当期末残高	28,619	12,726	110,754	△ 8,668	143,432	2,660	△ 179	△ 1,319	△ 790	739	1,111	3,212	147,756

(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー(要約)

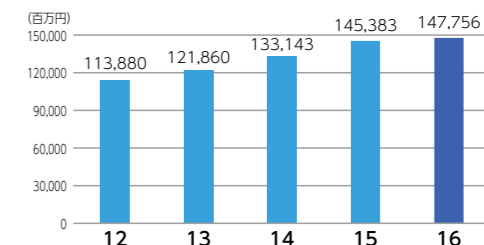
(2016年3月期)

(単位：百万円)

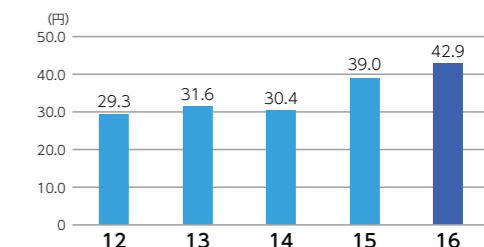


(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 純資産



■ 1株当たり当期純利益



■ 単体貸借対照表(要約)

当期：2016年3月31日
前期：2015年3月31日
(単位：百万円)

科目	当期	前期
●資産の部		
流動資産	104,382	96,188
現金及び預金	4,700	4,403
受取手形及び売掛金	84,086	75,387
その他	15,594	16,396
固定資産	190,057	185,110
有形固定資産	121,113	118,253
無形固定資産	5,484	6,264
投資その他の資産	63,459	60,591
資産合計	294,439	281,298
●負債の部		
流動負債	105,752	108,760
支払手形及び買掛金	57,550	53,034
短期借入金	31,328	23,798
その他	16,873	31,926
固定負債	87,942	77,950
社債	32,000	12,000
長期借入金	21,816	29,645
退職給付引当金	23,422	26,017
その他	10,703	10,288
負債合計	193,694	186,710
●純資産の部		
株主資本	97,925	89,282
資本金	28,619	28,619
資本剰余金	12,397	11,943
利益剰余金	64,628	57,434
自己株式	△ 7,720	△ 8,716
評価・換算差額等	2,818	5,305
純資産合計	100,744	94,587
負債純資産合計	294,439	281,298

(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 単体損益計算書(要約)

当期：2015年4月1日～2016年3月31日
前期：2014年4月1日～2015年3月31日
(単位：百万円)

科目	当期	前期
売上高	343,449	346,094
売上原価	316,545	319,247
売上総利益	26,904	26,847
販売費及び一般管理費	10,428	10,081
営業利益	16,475	16,766
営業外収益	1,531	2,492
営業外費用	1,940	1,640
経常利益	16,065	17,617
特別利益	—	757
特別損失	271	—
税引前当期純利益	15,794	18,375
法人税等	5,719	7,418
当期純利益	10,074	10,956

(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 1株当たり情報 (単体)

科目	当期	前期
当期純利益	33円38銭	36円32銭
配当金	11円	10円
純資産	330円88銭	313円57銭

■ コーポレートデータ

会社名 山九株式会社
住所 〒104-0054 東京都中央区勝どき六丁目5番23号
資本金 28,619百万円
事業所 国内支店40、海外駐在員事務所1
関係会社 国内51、海外現地法人44(14ヶ国)
従業員数 30,926名(連結ベース)
お問合せ先 総務・CSR部 Tel.(03)3536-3939
IRホームページ <http://www.sankyu.co.jp/ir/>

● IR関連のより詳しい情報については当社IRサイトをご覧ください。

■ 山九グループ概要

主な国内山九グループ		主な海外山九グループ	
● 機工グループ 山九プラントテクノ 平和テクノス 中央テクノ	日本工業検査 山九重機工 山九設計サービス 扶桑工業	● 東アジア 山九東源国際(香港) 大連山九国際物流(大連) 上海経貿山九儲運(上海) 広州山九物流(広州) 青島山九亜太物流(青島)	山九昭安国際物流(台湾) 江蘇山九物流(南京) 北京山九物流(北京) 上海山九設備安装工程(上海) 太栄山九国際物流(韓国) 青島捷順利達物流(青島)
● 物流グループ サンキュウシッピング 山九海陸 山協港運 中部海運 スリーエス・サンキュウ	サンキュウ・トランスポートグループ(6社) サンネット物流 JPサンキュウグローバルロジスティクス 広菱倉庫運輸 協和海運	● 東南アジア・中東 山九東南アジアホールディングス 山九インドネシア 山九シンガポール 山九マレーシア 山九タイ 山九レムチャバン(タイ)	タイバーズコンテナサービス(タイ) 山九ロジスティクスベトナム 山九ベトナム 山九サウジアラビア 山九ARCC(サウジアラビア) 山九インド
● サービスグループ(その他) インフォセンス サンキュウビジネスサービス 山九東日本サービス 山九中部サービス 中国ビジネスサービス 大分ビジネスサービス	山九ロードエンジニアリング 山九保険サービス サンキュウリサーチアンドクリエイティブ サンキュウ・ウィズ 防府ポートビル 沖永開発	● 米欧州 山九ユー・エス・エー 山九ヨーロッパ(オランダ) 山九メキシコ	山九ブラジル 山九ロジスティクスブラジル

■ 役員 (2016年6月28日現在)

代表取締役会長(CEO) 中村 公一
代表取締役社長(COO) 中村 公大
代表取締役副社長 平栗 直樹
代表取締役副社長[CTO兼技術・開発本部長] 吾郷 康人
代表取締役専務取締役(事業-エリア管理兼エリア統括兼安全・環境統括) 美好 秀樹
代表取締役専務取締役(管理担当) 小川 隆
取締役兼常務執行役員(財務担当CFO) 中里 康男
取締役兼常務執行役員(ビジネス・ソリューション事業本部長) 池上 僚一
取締役兼常務執行役員(人事・労政担当) 細井 研二
取締役兼常務執行役員(ロジスティクス・ソリューション事業本部長) 米子 哲朗
取締役兼常務執行役員(プラント・エンジニアリング事業本部長) 井上 正夫
取締役兼執行役員(経営企画担当) 結城 俊雄
社外取締役 岡橋 輝和
社外取締役 堀 啓二郎
常勤監査役 島田 正彦
常勤監査役 和知 啓彦
常勤監査役(社外監査役) 武田敬一郎
社外監査役(弁護士) 小川 憲久

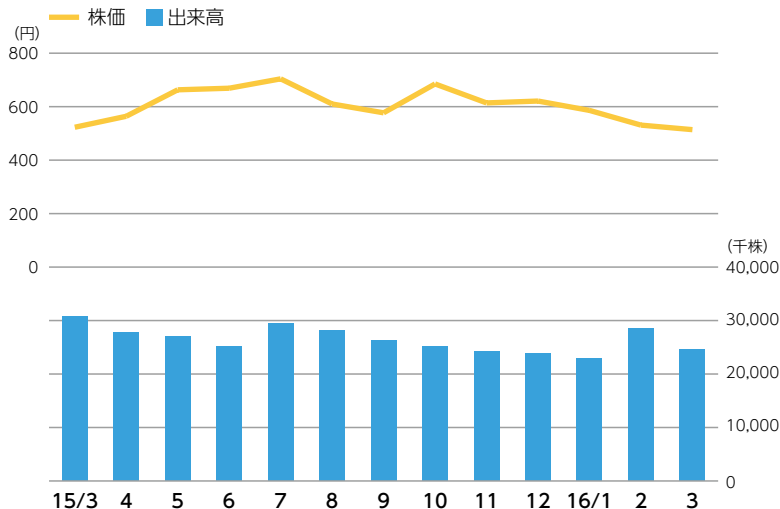
■ 株式データ (2016年3月31日現在)

発行可能株式総数 1,000,000,000株
 発行済株式総数 326,078,030株
 株主数 13,533名

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	24,638	8.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	15,046	4.94
JP MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A.380578	10,941	3.59
新日鐵住金株式会社	10,080	3.31
公益財団法人ニヒキ育英会	9,800	3.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	9,132	3.00
株式会社みずほ銀行	8,310	2.73
JP MORGAN CHASE BANK 380684	7,716	2.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	7,396	2.43
山九従業員持株会	7,079	2.33
合計	110,138	36.17

(ご注意) 1. 上記の他、当社保有の自己株式21,603千株があります。
 2. 持株比率は自己株式を除いて計算しております。
 3. 株式数については千株未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 株価・出来高の推移



山九株式会社
 証券コード: 9065
<http://www.sankyu.co.jp>

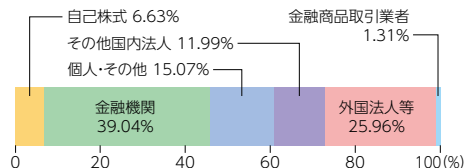
■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日まで
期末配当金	3月31日
受領株主確定日	毎年6月
定時株主総会	三菱UFJ信託銀行株式会社
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
特別口座 口座管理機関	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料)
同連絡先	
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sankyu.co.jp/koukoku/ (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に公告いたします。)

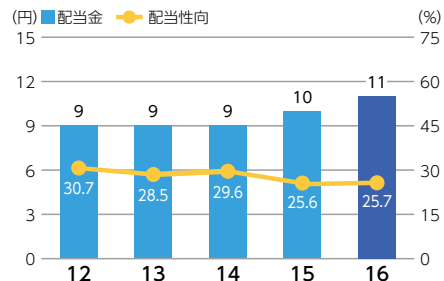
(ご注意)

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■ 所有株式数別構成比率



■ 1株当たり配当金 / 配当性向



UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
 ユニバーサルデザインフォントを
 採用しています。